

2024 年 5 月 15 日

大田市と三菱マヒンドラ農機が有機米の産地づくりに向けた活動を開始
農業の高収益化に向け、有機米の栽培体系確立へ
－紙マルチ田植機の実演研修会開催のご案内－

三菱マヒンドラ農機株式会社(本社：島根県松江市、CEO 取締役社長：齋藤徹、以下 三菱マヒンドラ農機)と大田市(市長：楫野弘和)は、5 月 1 日に締結した持続可能な有機米の産地づくりに向けた連携協定の一環として、大田市三瓶地区において下記の通り紙マルチ田植機の実演研修会を開催します。

研修会は大田市、三菱マヒンドラ農機が主催し、島根県が共催します。当日は田面に紙を敷きながら田植えを行うことで雑草の発生・伸長を抑えることができ、国のみどりの食料システム戦略で認定を受けている紙マルチ田植機について、実際に圃場で田植えを行いながら有効性や田植えの作業のポイントなどについて説明をします。

今回の研修会では有機米産地拡大に地域全体で取り組んでいくため、三瓶地区の農家だけでなく大田市周辺の有機栽培に意欲のある生産者や近隣自治体、JA など幅広い関係者に向けて実施し、理解関心を深めていただきます。実演圃場の提供者は紙マルチ栽培に初めて取り組む生産者で、2024 年度は今回の圃場を含む 5 経営体(2.41ha)で植付けを行い、カメラやセンサー、自動給水栓などのスマート農業技術も活用しながら、官民が連携して効率的な栽培技術の確立に向けて取り組む予定です。

ぜひ貴媒体でご取材賜りたくご案内申し上げます。

記

- ・日 程：2024 年 5 月 21 日(火) 10:00～ 午前中で終了 ※予備日 5 月 22 日(水)
- ・場 所：〒694-0221 島根県大田市三瓶町志学(堀田工務店様 圃場)
<https://maps.app.goo.gl/ExHxGBgBUbj7ueHS6>
- ・参加者：大田市周辺の生産者、県内市町村、JA
- ・主 催：三菱マヒンドラ農機株式会社、大田市
大田市産業振興部長 郷原寿夫、三菱マヒンドラ農機 常務執行役員 浅谷祐治が出席の予定
- ・共 催：島根県
- ・取 材：5/20(月)までに下記のいずれかにご連絡をお願いします。
延期の場合は、取材連絡をいただいた方に向けて 5 月 20 日(月)午前中にご連絡いたします。

【取材申し込み・お問い合わせ先】

島根県大田市役所 産業振興部 農林水産課

電話番号：0854-83-8083 / E-mail：o-ninaite@city.oda.lg.jp

三菱マヒンドラ農機株式会社 経営戦略室 上代

電話番号：080-9022-1255、0852-52-3287 / E-mail：tetsuya.jodai@mam.co.jp

[実演研修会 会場地図]



[参考情報]

- 国は 2050 年に有機農業の農地面積を 25%まで引き上げる目標を掲げており、日本の農地面積の 54%、島根県では 81%^{*1} を占める水田の有機栽培化は必要不可欠な取り組みとなっています。また、有機米は大都市部を中心に高値で取引されており、米需要が低迷する中でも貴重な成長市場となっている一方、除草等の手間がかかるため、付面積は限定的となっており、2020 年時点の有機農業取組面積は耕作農地に占める 0.6%^{*2} となっています。

^{*1} 島根県農林水産基本計画 令和元年より、^{*2} 農林水産省 有機農業をめぐる事情 令和 4 年 7 月より

- 島根県は、全国に先駆けて農林大学に有機農業専攻を設置するなど積極的に有機農業を推進しており、農林水産基本計画においても「有機農業の拡大」を重点推進項目として位置付けています。
- 大田市は、国立公園三瓶山周辺の豊かな自然環境を生かした稼げる農業を実現するため、国のオーガニックビレッジモデル地区として有機農業を推進しており、本年度 5 月 1 日には三菱マヒンドラ農機と官民連携協定を結んでいます。
- 三菱マヒンドラ農機は「Together we challenge 挑戦する喜びの共創」を掲げて事業を推進しており、様々なステークホルダーとともに新しい農業の価値創造に取り組んでいます。同社の「紙マルチ田植機」は、田面に紙を敷きながら田植えを行うことで有機米生産の障害になっている雑草の発生・伸長を抑えることができ、安定して効率的な有機米栽培を実現できることから、「みどりの食料システム戦略」において国の認定を受けており、全国で導入する農家が増えています。
- 大田市と三菱マヒンドラ農機の連携協定では、紙マルチ栽培による持続可能な有機米の産地づくりに取り組むことで、新たな地域農業モデルの構築と地域振興の実現を目指しています。

大田市と三菱マヒンドラ農機は 5 月 1 日に締結した連携協定の中で、本年度、三菱マヒンドラ農機は有機米栽培に取り組む三瓶地区の 5 経営体へ向けて「紙マルチ田植機」を貸し出し、紙マルチ田植え研修会の開催や栽培方法に関する情報提供を行うこととしています。また、大田市、島根県西部農林水産振興センター、三菱マヒンドラ農機等で、効率的な栽培技術の確立に向けた取り組みを行います。加えて、今後は有機米の流通経路や畜産堆肥などを活用した地域資源循環型の高付加価値なバリューチェーン実現に向けた連携についても協議し、地域農業の持続可能な発展に貢献してまいります。

[オーガニックビレッジ宣言について]

オーガニックビレッジとは、農林水産省の「みどりの食料システム戦略」の事業を踏まえ、有機農業の生産から消費まで一貫して、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことです。先進的なモデル地区を順次創出し、横展開を図っていく考えで、2023 年度時点では全国 93 市町村で取り組みが行われています。島根県でも農林水産部内に有機農業に関する係を設置し、大田市を含む 5 市町が取り組みを推進しており、担い手人材育成のため農業大学校でも全国に先駆けて有機専攻を設置するなど、有機作物の産地創出に積極的に取り組んでいます。

〈大田市 HP オーガニックビレッジ宣言について〉

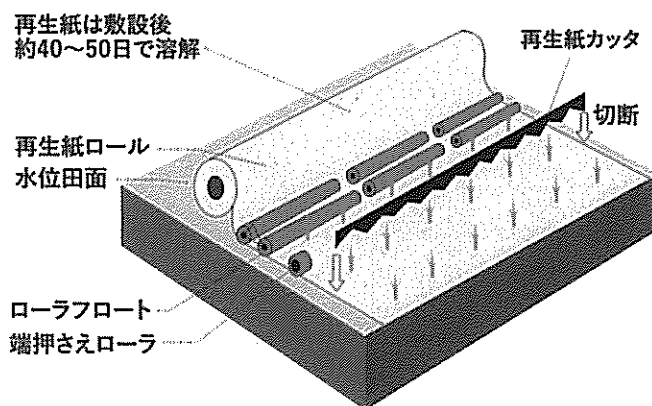
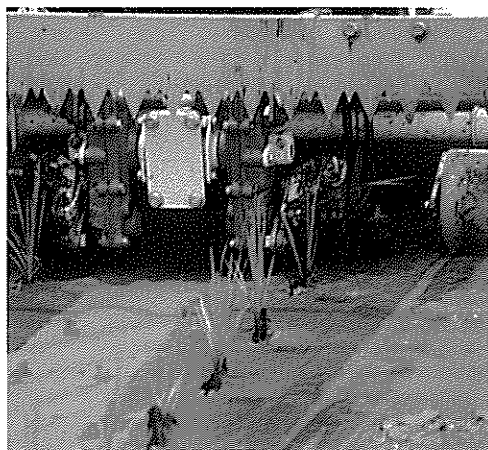
https://www.city.oda.lg.jp/ohda_city/city_organization/23/595/organicvillagedeclaration

[紙マルチ田植機について]

鳥取大学との共同開発で 1997 年に発売された製品で、田植えをしながら田面に専用の紙を敷き、雑草にあたる日光を遮ることで雑草の発生・伸長を抑え、除草剤と同程度の抑草効果を発揮します。紙は三洋製紙(鳥取市)で段ボール再生紙を利用して製造されており、40-50 日で溶解して有機肥料となるため、薬剤を使用せずに効率的な除草効果が得られます。有機栽培でネックになる除草作業の労力を軽減できるのに加えて、安定した収量が見込めるため経営の安定化にもつながる製品です。農林水産省の「みどりの食料システム戦略」において国の認定を受けており、全国で導入する農家が増えています。

〈三菱マヒンドラ農機 みどりの食料システム戦略の認定について〉

https://www.mam.co.jp/news/pdf/topics_20221130.pdf



以上